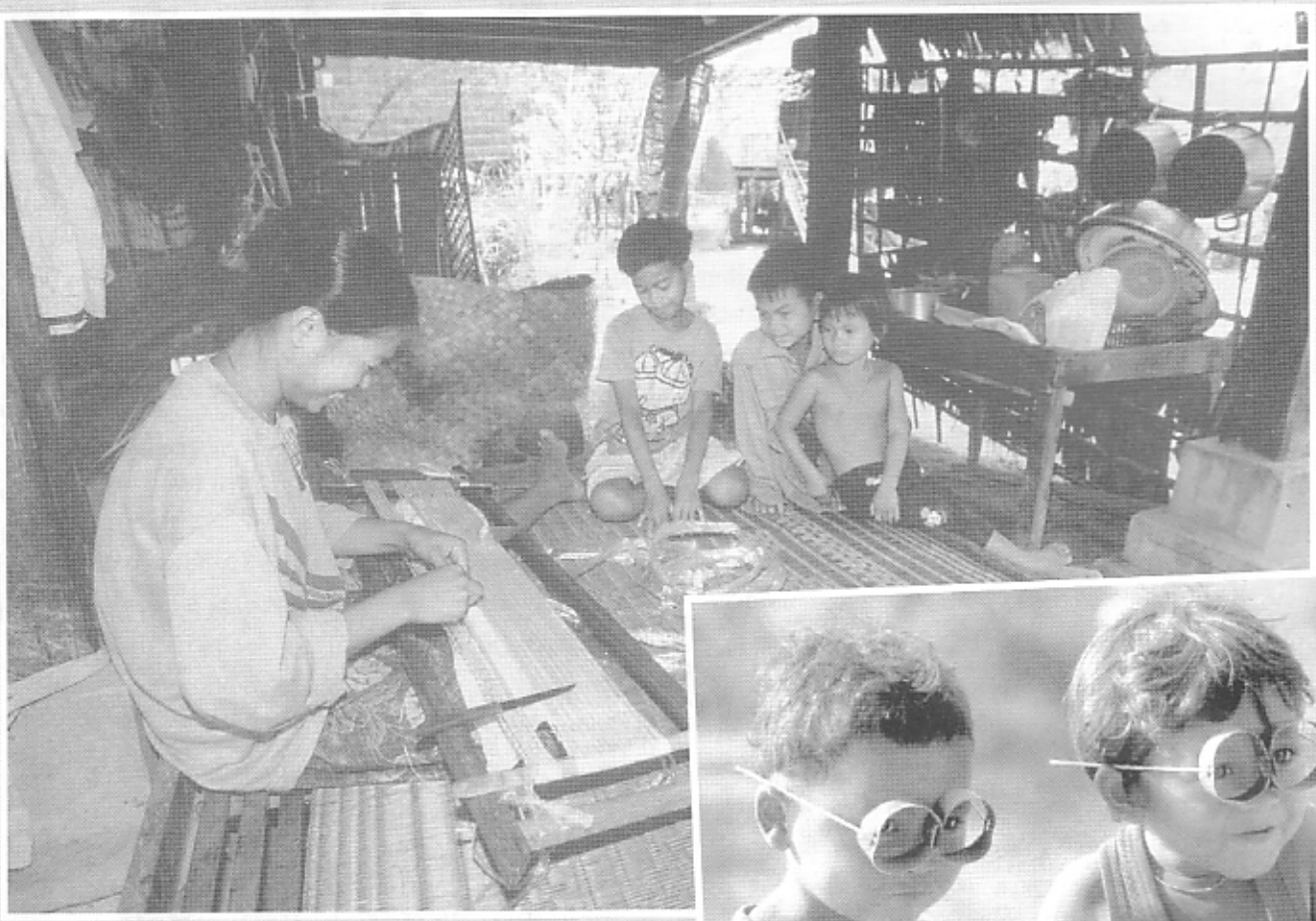
平成12年9月5日発行（年4回3・6・9・12月5日発行）通巻55号

子どもたちの明日

2000年 9月 No.55



織物に励むカンボジア女性　©小林正典
Cambodian woman working on her textile
©Masanori KOBAYASHI

目次　CONTENTS

シリーズ設立20周年を考える
織物を通してカンボジア支援と理解を
大井 幸子
2 CYR at Its 20th Anniversary
Understanding Cambodia Through Its Textile
Sachiko OHI

第20回定時総会報告
4 CYR's 20th Annual Meeting

お知らせ
7 Information

アランヤプラテート最後の現場から
引き継がれてきたもの、伝えていくもの
長谷川 恭子
8 Report from Aranyaprathet, Thailand
Things Inherited and Things to Be Passed On
Kyoko HASEGAWA

写真レポート　20周年記念イベント
11 Photo Report : CYR 20th Anniversary Events

20周年記念イベント ZOOM UP
児童文学者　上條 さなえ氏
12 Interview with Ms. Sanae KAMIJYO, a Writer
"To Be Loved Once Again"

CARING FOR YOUNG REFUGEES
幼い難民を考える会
CYR

Children, Our Future

SEPTEMBER 2000

シリーズ 設立20周年を考える

織物を通してカンボジア支援と理解を

大井幸子 CYR常任理事

©小林正典
©Masanori KOBAYASHI

二十三歳のリム・キムは、離婚したあと母親と一緒に住んで一歳と二歳の子どもを育てている。
セーム・アンは五十五歳、母(七十五歳)と息子(二十四歳)と稲作をしている。
ドイ・スレイパウは十七歳、プノンペン在住の姉と同居している。

今年六月からの染織の短期研修生の顔ぶれです。糸を織機にかけるための準備、絣を織るため糸をくくり、染めること、クロマーと呼ばれるスカーフ、手ぬぐい、風呂敷、日よけと人々がなんにでも使う布を織ることから始めます。

一九八〇年代の難民キャンプに始まった織物研修は、プノンペン織物センターの97年開設によって本格化し、一年または三ヶ月の研修を終えてその後も在宅で織物を続けている女性は今年で十二名となりました。CYRは織機と糸を提供し、出来あがった生地を買い取り、日本へ送ります。その収益が彼女たちや家族の生計の糧となっています。少しでも経費を補ってかつ織り手の収入向上につながればと私たちは願っています。皆様がたの協力を得て、地道に続けていきたいと思います。

日本 展示・販売を拡大

日本での織物展示・販売は二〇〇〇年に入って更に活気を呈しています。マスメディアや一般向け広報が効を奏し、展示・販売会が回を重ねるにつれ、来場者が定着し、染織を趣味あるいは専門とする人たちがCYRの織物に目を向けはじめてきました。アジアの布や雑貨がブームになりつつあることも影響しています。でもただ安いだけのものや粗悪な品質のものもたくさん見られます。CYRはそのような風潮に流されることなく、カンボジアの伝統的織柄の復活と保存、環境に優しい草木染めの研究、なにより女性の経済的自立の支援を目的として織物事業を展開していきます。現在のところ会の織物販売は小規模で、販売もボランティアの奉仕に頼っており、カンボジアでの事業経費をカバーできるような売上に達するためには一層の努力が必要と思われます。

カンボジア 研修を強化

一方カンボジアでは織物を教えている"ビアップ先生"が日本での反響をよろこび、一層意欲的に指導・製作にあたっています。昨年まではスカーフ類が主でしたが、ブラウス、スカート、パンツなどの衣類、タペストリー、クッションなどのインテリア製品、巾着袋など端布を使った小物類なども送られてくるようになりました。縫製技術は未熟なところがありますが、担当者の意欲も強いので、日本で縫製の専門家にサンプルと型紙を作成してもらい、注意書きをつけてカンボジアへ送っています。今年は染織専門家を日本からカンボジアへ短期派遣し、染めの基本、媒染剤の効果的な用い方、絣用の糸の染めなどを指導してもらう予定です。

今年の目標

今年の目標は、技術の向上に加えて先生の頭のなかにある何十種類もの絣模様の見本帳を作ること、しっかりしたカリキュラムを作ること、指導者の養成、縫製技術の向上をはかることです。日本では、定着してきた催しを通じて一人でも多くの方々にカンボジアを知っていただきたい、そして女性の自立を支援して通していただきたいのです。

織物センターで草木染の研修 ©小林正典
Traning in dyeing at the Weaving Center ©Masanori KOBAYASHI

CYR at Its 20th Anniversary

Understanding Cambodia Through Its Textile

Sachiko OHI, CYR Executive Director

23-year old Leam Kim lives with her mother after her divorce and raises two children, 1 and 2 year old.
Sim An is 55 and tends the rice field with her mother (75) and son (24).
Douch Srey Pao is 17 and lives with her sister in Phnom Phen.

They attended the short term weaving course started in June and learned to prepare threads for putting on the loom, to tie threads for ikat weaving, to dye them, and started weaving kromers, fabric used as scarf, towel, wrapper, sunshade, etc. in Cambodia.

Started in the 1980s at the refugee camp, training was carried over to the Weaving Center opened at CYR's Phnom Penh Office in 1997. Currently, 12 women continue weaving at home after finishing the one-year or 3-month course. CYR provides the loom and threads, purchases finished fabrics, sells them in Japan and returns the profit for sustaining their and families' lives. We hope to help pay the expenses and increase their income by furthering our efforts here and in Cambodia.

Exhibits and Sales in Japan

Exhibits and sales of textiles from Cambodia have gained momentum in 2000. As public relations efforts for mass media and general public have increasingly become effective and the exhibits and sales held in succession, many pay return visits and those interested in dyeing and weaving as hobbies or profession are beginning to be aware of CYR's textiles.

Although Asian fabrics and sundry goods are becoming a boom in Japan, some are inferior in quality and merely cheap in prices. CYR intends to offer high quality fabrics, deploy its weaving project to restore and preserve traditional weaving patterns of Cambodia, to deepen knowledge of environment-friendly vegetable dyes, and above all to support Cambodian women's efforts for their financial independence. At present, CYR's weaving project is very small in scale and we depend almost entirely on volunteers for their sale. We need to renew our efforts to achieve the sale that would finance the expenses in Cambodia.

Training in Cambodia

In Cambodia, Ms. Piapp is pleased with the reception in Japan and is constantly renewing her efforts for guidance and production. Up to 1999 they produced mainly scarves, but they are now sending out blouses, skirts and pants, tapestries and cushion covers, and small bags and pochets. Although their sewing skills need improvements, their willingness is impressive. We had samples and paper patterns made by a dressmaker and sent them to Cambodia. Two experts will soon be dispatched from Japan for guidance in basics of dyeing, effective uses of mordant, and tie-dyeing for ikat.

Target for 2000

This year's agenda include improving the skills, making a sample book of ikat patterns that the trainer has in mind, preparing curriculum of the courses, training teaching assistants, and improving the skill in sewing. In Japan, we hope above anything else that visitors to the exhibits would deepen their knowledge and interests in Cambodia, and help women trying to support themselves and families.

第20回定時総会報告

タイ事業終結を承認

二〇〇〇年六月十七日(土)、東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、会員四十七名が出席(委任状提出会員二〇四名)してCYR第二十回定時総会が開催された。総会は松岡玲子氏の司会により開会し、深水代表の挨拶に引き続き、議長に高橋敬章氏を選出して議事が進められた。

まず、峯村事務局長、関口カンボジア事務所長、長谷川タイ事務所職員から、それぞれ一九九九年度の事業概要および二〇〇〇年度の事業計画が報告され、提案どおり承認された。これにより、CYRが十年間におよぶ活動実績を持つタイ事業については、すべての事業を行政および村人に引き継ぐ時期が来たとの判断に基づき、DEC(CYRタイ事業実施部門)を閉鎖し、タイの保育支援を終えることになった。また、設立二十周年記念事業として、写真展、チャリティ・コンサートの開催など、七つの記念事業の計画が発表された。

ついで、決算案・予算案について峯村事務局長から説明と提案があり、それぞれ原案どおり承認された。大川監事からは、事業が適正に実施され、会計決算が正確に処理されている旨、監査報告があった。

役員改選で、次の十三氏が選出され就任した。

2000年度CYR役員

代表理事 深水正勝
事務局担当理事 大井幸子
常任理事 交野政博、高橋敬章、深津高子、山口里香
理事 佐藤和子、神保真理子、関口晴美、松岡玲子、山極小枝子
監事 大川晴一郎、鈴木雅博

定時総会の詳しい内容については、年次報告書をご参照ください。

特定非営利活動法人化は継続審議に

第二十回定時総会に引き続き、特定非営利活動法人「幼い難民を考える会」設立総会が開催された。ニュースレター四十九号(一九九九年三月)で関口前事務局長が特定非営利活動促進法(NPO法)に基づくCYRの法人化の必要性を呼びかけて以来、事務局は法人化に向けて準備を進めてきたが、昨年は資料不足で設立総会を延期せざるを得なかったいきさつがある。

今回の設立総会では、設立趣旨書を含む設立議案書が配布され、これに基づいて提案趣旨説明が行われた。これに対し会員からは「法人化により逆に制約を受けるのではないか」「事務が煩雑になるなどのデメリットはないか」「法律の専門家の意見を求めてはどうか」「提案の設立目的・事業内容の記述は、表現として適切か」などの意見があり、活発な議論が行われた。その結果、本件は全員の賛同を得て決すべき事項との議長判断により、あえて採決を行わず継続審議となった。今後この問題は、事務局においてさらに問題点を精査の上、再度提案する予定である。

NPO法

NPO法は一九九八年に制定され、市民団体や民間団体に法人格を与えることにより、市民活動を活性化し、NPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)を行政、企業と並ぶ第三の社会セクターとして位置付けようというものである。法人格を持たない任意団体は官公庁への書類等の届出等が必要でない反面、事務所の賃貸、預金口座の開設など、契約の当事者となることが出来ない。また、責任がすべて代表個人に帰せられてしまうなど問題も少なくない。法人化すれば、より大きな社会的信用と責任ある体制作りが可能になる。

CYR設立20周年記念レセプション

定時総会終了後、都内のカンボジアレストラン「アンコールワット」に、役員・会員・支援者約六十名が集い、CYR設立二十周年を祝った。カンボジア料理に舌鼓をうちながら、旧交を暖めたり、新しい出会いを楽しんだりして大いに盛り上がった。レセプション席上、長年にわたってCYRの活動を支援してこられた「日本外国語専門学校」「カンターテ・ドミノ」の二団体、ボランティアとして貢献された会員の今井美恵子さん、小島美子さんの二氏に対して深水代表理事から感謝状の贈呈があり、会場の盛んな拍手に包まれた。

講演会

「子どもの問題とどう向き合うか～CYRの歩みを通して」

いいぎり ゆき

定時総会に先立ち、CYR発足のきっかけを作り、子どもの発達の研究と保育者の育成に関わってこられたいいぎりゆき氏を講師に迎えて講演会が開かれた。以下、講演の要旨を報告する。

子どもの問題と向き合うということは、私たち大人が自らの生き方をどうするかの問題である。私たち大人は、理想と現実を割り切って考え、平和とはどこか遠くにある飾り物のように考えがちであるが、子どもたちは理想を現実にするべきだと学んできている。この矛盾の中で共通の方向を見いだすことが私たちの課題だ。私たちは子どものためといいながら、営利優先主義で大人中心の生活を求め、そのために、ああしろ、こうしろと子どもを脅迫してはいないだろうか。子どもたちの苦しむ状況をじつは大人が作っている。私たち一人ひとりが何とかしなければならない問題だ。子どもたちの周りで起こっている理不尽な出来事に対して、大人がどのように感じ、どのように子どもを守ろうとしているかが子どもたちに伝われば、彼らの不安も和らぐのではなかろうか。そのためには、大人が自分たちの問題と向き合うことがポイントだ。それは同時に、CYRが今後どのように社会的責任を果たして行くかに光をあてることにもなる。

最近の子どもたちは自己中心的だと言われる。しかし、ある家庭裁判所の調査官は、子どもの本質は昔も今も変わらない、その出方が時代によって異なるだけだ、と述べている。子どもたちは何とか自分をつかみたい、誰かに認めてもらいたいと願っている。子どもに耳を傾けることこそ大切なのだと。

「幼い難民を考える会」は現在、国際法上の難民は支援していない。しかし、当会は難民がいたからではなく、難民が苦しんでいる状態があったから活動を始めたのだ。難民の存在を「属する所をもてない、保護されていない状態にある人」と見るならば、日本の中にも難民は存在する。子どもたちに家庭や学校の場がありながら、そのいずれにも属することができない状態は、ある意味では国際的援助を受けられる難民よりもっと過酷である。CYRは今後、普遍的な子どもの問題とどう関わっていこうとするのか。目的を見据え、きちんと議論することが大切である。

レセプション　Reception

CYR's 20th Annual Meeting

On June 17, 2000 (Sat) CYR's 20th Annual Meeting was held in Tokyo attended by 251; 47 in person and 204 by proxy. The agenda included reports for 1999, plans for 2000 on CYR's activities, financial statements for 1999, and the budget for 2000. Plans for 2000 included events commemorating CYR's 20th anniversary and closing of DEC, CYR's division in Thailand, in July. The agenda was approved.

Thirteen new directors were appointed. Father Masakatsu FUKAMIZU was appointed as the representative and Mrs. Sachiko OHI as the director in charge of the secretariat.

Following the annual meeting, the general meeting was held to establish CYR as a specified non-profit corporation. CYR has been making preparations to apply for the corporate status as our newsletter discussed its need in March 1999. After a candid discussion the meeting concluded that CYR Secretariat should further study merits and demerits of becoming such corporation and propose the agenda again.

20th Anniversary Reception

After the general meeting was over, about 60 CYR members and supporters gathered at Angkor Wat, a Cambodian restaurant in Tokyo, to celebrate CYR's 20th anniversary. While enjoying Cambodian food, the participants exchanged information and opinions and had a good time. At the reception awards were presented by CYR representative Father FUKAMIZU to two organizations, Japan College of Foreign Languages and CANTATE DOMINO, and two volunteers, Ms. Mieko IMAI and Ms. Yoshiko KOJIMA, to thank them for their contribution to CYR's activities for many years.

Law for Promotion of Nonprofit Activities

The law for NPO was enacted in 1998. Its aim was to promote the activities of citizens' groups and bring NPOs and NGOs in line with the administration and enterprise by giving them corporate status. Groups without corporate status do not need to send papers to government and municipal offices, but they cannot take offices on a lease themselves or open an account with a bank. Besides that the whole responsibility would rest with individuals and not with groups. Groups would be socially relied on and responsible if they are given corporate status.

Learning from Children
——A New Direction for CYR

Ms. Yuki IIGIRI

Prior to the general meeting, CYR held a lecture meeting by Ms.Yuki IIGIRI who has contributed greatly to the founding of CYR and has researched on early childhood care and development and been engaged in training programs for childcare workers. The following is a summary of her speech.

Children's behavioral problems are closely related to the attitudes of adults towards their daily life. We know that ideals and realities do not always go along together, therefore, we tend to regard peace in the context of a figurative term remote from reality. However, children have been taught to realize the ideal into reality. Our task ahead is to find a common ground with children in this contradiction. For the sake of children, as we often say, do we not pursue our benefit seeking, adult oriented life, and by so doing threaten to drive children to do this and that? Adults are in fact the cause for the suffering of children, and we all should make efforts to put this cycle to an end. If it becomes clear to children how adults feel about unreasonable demands placed on children and try to protect them, wouldn't children be put more at ease? In order for adults to reach this level it is necessary to face ones' own problems. Such attempts at remedies for improving the relationship between children and adults could also shed some lights on the question of how in future CYR should look to achieve its social responsibilities.

It is often said that children of today are self centered. However, an researcher of the family court reported that the innate quality of children has not changed from the past, and that its appearances differ according to the needs of the times. Children are eager to find themselves and in want of recognition by someone. Above all, adults need to listen to children.

Today, Caring for Young Refugees is not providing aid to the refugees recognized under international law. CYR's initial activities were formulated around the displaced people so called refugees, but the emphasis was much on the devastated conditions in which people were suffering. If CYR could redefine, as its name suggests, refugees as those who belong to nowhere and are not being cared for, we may well say that there are refugees in Japan as well. They are our troubled children born to homes and placed in schools, yet have no places to which they can comfortably belong. The situation is harder, in a sense, than for those refugees receiving international care and protection. How should CYR chart its future course on the universal issues of children? The organization needs to have candid discussions with a clear focus on its aim.

お知らせ Information

1 イベントカレンダー Calendar of Events

9.14(Thu) ～16(Sat)　10:30am～4:00pm
Photo & Textile Exhibition/Sale in Ashiya
写真展・織物展示即売会
芦屋・ラ・モール芦屋 1Fアトリウム

9.23(祝)　2:00pm, 6:00pm(2回公演)
20th Anniversary Charity Concert in Kyoto
CYR20周年記念「チャリティコンサート」
出演：男性デュオ アゲイン
写真展、原画展、織物展示即売会同時開催
京都市国際交流会館

9.30(Sat)　2:00pm～4:00pm
20th Anniversary Lecture Series No.2 in Tokyo
連続講演会　第2回
テーマ：「もう一度、愛されるために」
講師：上條さなえ（児童文学作家）
東京・国立オリンピック記念青少年センター

10.7(Sat)　2:00pm～4:00pm
20th Anniversary Lecture Series No.3 in Tokyo
連続講演会　第3回
テーマ：「子どもたちはいま」(仮題)
講師：原ひろ子(文化人類学者、放送大学教授)
東京ウィメンズプラザ

10.22(Wed)
Textile Sale in Kobe and Tokyo
織物即売会　神戸市しあわせ村
織物即売会　原宿・東郷神社水交社

11.17(Fri) ～18(Sat)　10:00am～4:00pm
Photo&Textile Exhibition/Sale, Lecture in Tokyo
織物展示即売会　講演会、写真展同時開催
六本木・真言宗正光院

11.24(Fri)
Photo & Textile Exhibition, Lecture in Tokyo to celebrate CYR's 20th Anniversary and 5 years' cooperation with Kita-ku
CYR 20周年・北区東南アジア保育支援事業5周年記念
写真展・織物展・講演会
北区・北とぴあ

お問合せ
「幼い難民を考える会」　Tel：03-3724-7525
For more information, call Caring for Young Refugees.
9月19日(火)以降は、事務所移転のため下記番号へ。
After Sept.19 (Tue)　Tel：03-3796-6377

編集ボランティア募集

ニュースレターの企画・取材・編集をしてみませんか。次号編集会議は9月16日(土)午後2時より事務局で。関心のある方は広報担当吉田まで連絡を。

Join Us in Editing Our Newsletter
The next editorial conference will be held on Sept.16 (Sat) at CYR Office.
If you are interested, please contact Ms. Yoshida at CYR Office.

「IBBY朝日国際児童図書普及賞」にCYRが推薦される
CYR Was Nominated for 'the IBBY-Asahi Reading Promotion Award 2001'

「IBBY朝日国際児童図書普及賞」は、国際的な規模で、児童図書の普及や読書推進運動あるいは識字活動に重要な貢献をしている専門機関や市民団体に授与される賞であるが、CYRは2000年度に続き2001年もその受賞候補に推薦された。2000年度は残念ながら受賞を逸したが、CYRのカンボジアにおける歌絵本出版や文字表発行をはじめとする子どものための活動が高く評価されたことは大変な名誉と受けとめている。2001年の選考は2000年9月に行われ、授賞式は、イタリアのボローニャ国際児童図書展会場において催される予定である。受賞団体には活動資金として賞金100万円が贈られる。なお、98年にインドで開催されたIBBY(国際児童図書評議会)世界大会では、美智子皇后陛下がご幼少の頃の読書経験をビデオで講演され、多くの人びとに感銘を与えられた。

'The IBBY-Asahi Reading Promotion Award' is an award on a world-wide scale given annually to a group or an institution which is outstandingly contributing to book promotion programmes for children and young people. CYR was nominated for the Award 2001 following the Award 2000. Unfortunately, CYR was not selected as the winner in the year 2000. However we are very pleased that CYR's activities for children in Cambodia, especially publishing children's song books and tables of Cambodian letters, are highly regarded.

The selection of the Award 2001 will be made in September 2000. The prize will be presented to the winner during the Bologna Children's Book Fair in Italy. The prize consists of a diploma and a sum of one million yen to be used for the recipient's activities. Some of the readers may recall that at the IBBY's world meeting held in India in 1998, Her Majesty the Empress Michiko of Japan made a speech on the video about her experience of reading in her childhood. Her speech impressed many people.

～アランヤプラテート最後の現場から～

引継がれてきたもの、伝えていくもの

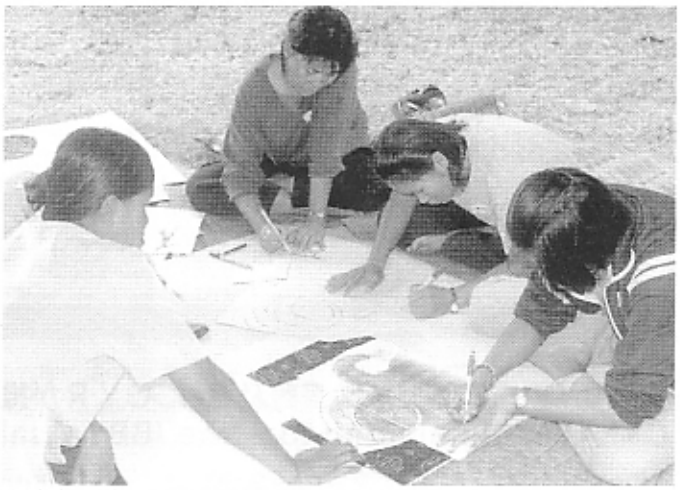
長谷川 恭子　タイ事業担当

二〇〇〇年六月三十日、アランヤプラテートの町で約十年間活動を続けてきたDEC（CYRタイ事業実施部門）が終了した。DEC最後の日本人担当者として、歴代の担当者、タイのスタッフ、関わりを持ったすべての人たちへ思いを馳せずにはいられない。

業務終了のための作業を進める中で、カオイダン難民キャンプ時代から現在までの膨大な量の報告書、資料を整理した。すると丁寧に手作りされた子どもの教材、愛情のこもった視点で捉えられた子どもの写真も続々と出てきた。それら一つひとつから先任者の熱意や純粋な想いが伝わってくる。しかし同時に感じるのは、引き継ぎの難しさである。後任が働きやすい環境を残すこと、前任者の想いを理解し今後に生かすことが想像以上に難しいことは、長い間事務所に埋もれていた書類たちが物語っている。今後は横のつながりだけでなく縦のチームワークも育てていきたい。

長年CYRのスタッフとして働いてくれたスタッフのひとりから「CYRで働いたことで多くを学び貴重な経験を積むことができた。とても感謝している」という言葉を聞くことができた。このスタッフを通して「人を育てる」という私たちの大きな目標を少しでも達成できたのだとしたらとても嬉しく思う。今まで苦楽を共にしてきたDECスタッフたちがDECを巣立ち、これからどんな人生を送るのか、今後の活躍がとても楽しみである。ひとりでも多くの人が、DECでの経験を糧に素晴らしい人生を歩んでくれたら、同時期を過ごした仲間としてこんなに嬉しいことはない。

村の保母さんたちと最後のあいさつをしたときも、DEC閉鎖を惜しむたくさんの声を聞いた。お世辞ではない真実の声に、DECの功績を改めて感じた。彼女たちの眼差しには不安が感じられるが、今ではDECを通して村の保母同士の間に強いネットワークも生まれている。私たちは彼女たちの可能性を信じて、子どもたちの将来を託した。うまくいって欲しいと心から願っている。



保育者の研修　Training childcare workers

DECの周りにいた人たちも忘れてはならない。DECスタッフの良き相談者でありDECのことを誰よりも分かっている隣に住むチュンおばさん、器用な手先でDECの教材を丁寧に仕上げてくれた今は亡きスラット、随分昔に村を訪れた短期研修のメンバーを今でも覚えているタックのお母さん、きつい仕事をいつも笑顔で引き受けてくれたメイドのボーン、元気な笑い声を事務所中に響かせ私たちを和ませてくれたボーンの娘ウム。DECの活動の影にはいつもたくさんの人たちの姿があった。

タイの村の子どもたち　Children in a Thai village

ポイペト訪問記

目黒鉄郎　ＣＹＲ事務局長補佐

７月３日にアランヤプラテート（以下アラン）からカンボジアのポイペトに入った。ポイペトは国境を挟みアランの向こう側にある。去年カジノが出来て、タイからのカジノ目当ての観光客で大変賑わっている。しかし、その町で近年プノンペン等から仕事を求めて貧しい人たちが多く集まり、スラムを形成していると聞いた。

町全体の暮らし向きはアランと比べて質素だ。道路は舗装されておらず、雨が降ると泥濘の悪路と化す。掘立て小屋、モルタル作りの家、新築あるいは改築中の家が混在している。町のはずれにスイスのＮＧＯが運営しているリハビリセンターがあった。支援しているのは、タイへ密入国してストリートチルドレンになり、タイ当局から強制送還されたカンボジアの少年たちである。センターを見学した後、スタッフと共にスラムに出かけた。

人々は、悪臭が漂う汚物や汚水の中に、ちっぽけで粗末な掘立て小屋を作り暮らしている。しかもそのスラムは、新たなカジノを建設するために取り壊され、住民たちはそこから車で30分以上もかかる、水も食料も何も無いところへ強制移住させられると聞いた。

スラムの住民や子どもたちはどうなるのであろうか。何か私たちにできることはないか考えていきたい。

Slums in Poipet

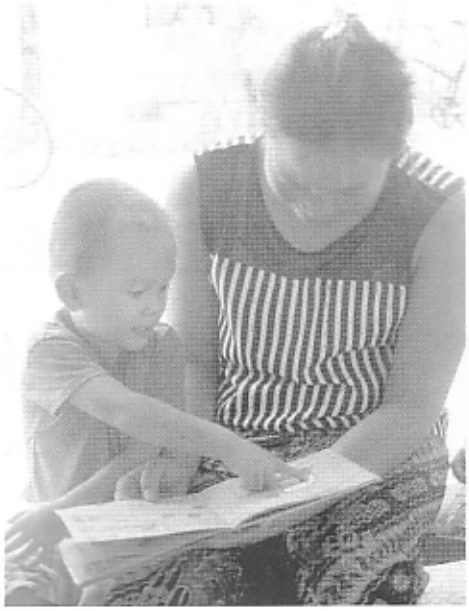
Tetsuro MEGURO, CYR Executive Assistant

I entered Poipet in Cambodia from Aranyaprathet on July 3rd. The town was not as developed as Aranyaprathet. The roads were not paved and when it rained it would be covered with mud.

In the center of the town lies a rehabilitation center organized by a Swiss NGO. They give aid to the Cambodian children who smuggled themselves into Thailand, became street children and were deported to their own country. After taking a look around in the center, the staff and I headed for slums.

People there live in shacks surrounded by excretion and filthy water. To make matters worse, I heard that they would be forced to leave the place as another casino would be built.

What will happen to the residents and the children in the slums? We ought to think how we could be of any help to them.



ＤＥＣの10年間がどれだけ意味のあるものだったのか、その評価が本当に下されるのはこれからである。その意味でも、今ここで私たちの歩んできた道を振り返り、先任者の想いを感じとり、反省を次に生かしていく作業が必要なのだと思う。私自身、今回その最初の作業に関わることができ、歴史の重みを実感し、その中で自分へと引き継がれてきたものを実感することができたことは、大変貴重な経験だった。

巡回活動　Mobil activity

何よりも大切なのは、昔の人も、今の人も、巣立っていった人も、エネルギー源はただひとつ、子どもたちの平和な姿であるということである。この共通項のもとで私たちはつながることができる。常にここに立ち戻ることができる。ＣＹＲの原点がここにある。

最後に、今までＤＥＣを支えてきてくれたすべての歴代スタッフ、村の保母さん、お父さんお母さんたち、すべての子どもたち、そして日本の多くの支援者に、改めて心より感謝の意を表したいと思う。

ありがとうございました。

Things Inherited and Things to Be Passed On

Kyoko HASEGAWA, DEC Staff

タイの保育所
Childcare center in Thailand

On June 30, 2000 we finished all our activities for DEC which lasted for 10 years in Aranyaprathet in Thailand. As one of the last Japanese staff involved I can not help but extend my thought to all the people who have supported us.

While in the process of closing the office, I sorted out a huge volume of documents and data dating back to the time when we started our activities in Khaiodan Refugee Camp. The numerous things I found were meticulously made educational materials for children and lovely photos of them taken affectionately by the staff. From every single item I could feel the passion and sincerity of people involved. The old documents piled up in the office, however, eloquently told me how difficult to pass on the works to the successors in the long run. This could be achieved only when the necessary environment is left for a successor and his/her readiness to understand the thought of ex-staff to reflect it on the future works is attained. Considering this notion, from now on, I would like to try to develop vertical human relations beside horizontal ones.

One of the staff who worked many years for CYR told us that he is thankful for CYR because through the period he could learn a lot while having a precious experience. We would be happy if we could have attained,our target of "developing needed human resources". We are very interested in the staff's future, who shared difficulties as well as pleasures with us, after they leave DEC. It would be our utmost pleasure, as friends who worked together, if as many of them as possible will lead meaningful lives after their experiences at DEC.

In my last greeting to local childcare workers, I heard lots of voices saddened by the closure. But the evaluation of DEC, rather than compliment, really made me feel the solid achievement DEC made. The good thing is that a strong network between childcare workers was established through DEC. Believing the abilities of each childcare worker, we entrusted the children's future to them. We believe our thought are passed on to them and cross our fingers.

We also must not forget all the people who ardently supported DEC. Mrs. Chun who lives next door to DEC and was a good consultant to the staff. Mrs. Chun understood what DEC was all about more than anyone else. The late Srat had dexterous hands and made educational materials for children. Mrs. Tak who can still remember the members of staff who visited the village for a short-term-training session quite a long time ago. The maid, Porn, who always accepted hard work with smile, and her daughter Um whose cheerful laughter shook the whole office. There have always been people who supported DEC's activities from behind.

It will be in the future when the real evaluation, whether or not the closure is a right decision and significance of DEC's 10 years presence, will be made. I think it is necessary to look back down the track we walked while trying to catch the ex-staff's wish, and integrate our reflection into the future plan. As for me, it was such a precious experience to be there at the time of closure, which made me realize the gravity of history and stream of thoughts eventually passed on to me.

The important thing is that the energies of activities for those who have worked here all originated in the passion for peaceful mind of children. We, CYR members, can be joined at this very common point.

At the end of my report I would like to thank all the people involved; staff, childcare workers, parents, children and supporters in Japan.

Thank you very much.

写真レポート
Photo Report

20周年記念イベント
20th Anniversary Events

「タイ・カンボジアの子どもたち」

6/24 (Sat) ～26 (Mon)

写真展、織物展示・販売、講演会、カンボジア伝統舞踊、交流会
場所：横浜・産業貿易センタービル

'Children of Thailand and Cambodia'

Photo & Textile Exhibition/Sale, Lecture,
Cambodian Dance Performance in Yokohama

「日本とカンボジア 子どもの歌コンサート」～クメールの里～

7/2 (Sun)

出演：男性デュオ アゲイン、カンボジアの子どもたち
場所：目黒 区民センターホール

'Wind from Khmer'

Concert of Children's Songs in Tokyo
AGAIN (duo),
Combodian children living in Japan

来賓：カンボジア大使館二等書記官
Guests : Second Secretary, RoyalEmbassy of Cambodia and his family

コンサートの感想（アンケートより） Comments from the Audience

・「クメールの里」を聞いて、平和なカンボジアをつくって欲しいと切に思った。
The song 'Village in Khmer' made me yearn for peace in Cambodia.

・カンボジアの童謡を聞くのは初めて。大変懐かしい気持ちになった。
I heard Cambodian songs for the first time. I recalled my old days.

20周年記念イベント
ZOOM UP

Ms. Sanae KAMIJYO

—To Be Loved Once Again

"It is surprising that mothers of today can not even scold their own children!" says Ms. KAMIJYO who served as a chief of a children's center for 11 years until the end of June this year. While looking back her own child raising experience she insists "Gentleness should coincide with strictness but today it is mixed up with irresponsibility and vagueness."

Ms. KAMIJYO, a writer of children's stories, is one of the three lecturers invited for CYR's 20th Anniversary Lecture Series. The title of her lecture will be "To be loved once again" in which she will speak about what she noted through her experience at the children's center and also about family bond which she thinks is important.

After teaching in primary school, she became housewife and started writing. She won a prize in children's literature category in a competition sponsored by the Mainichi Shinbun when she was 35. For 13 years since then she has written 30 books for children. She wants to advocate the important role the family bond plays in bringing happiness. Due to the declining popularity of books, the number of children's books published is decreasing year by year but she wishes to express her thoughts through books even if she can not make good profit by doing so. She raised her tone when she said, "Today, a writer of children's stories is a preacher".

She lives with her husband, her daughter and a rabbit 'Ari-chan'. She smiled impressively when she said, "I am healed of sadness by caring for a small creature like rabbit."

上條さなえ氏

～児童文学者という伝道師～

「今のお母さんたちは自分の子どもさえ叱れないんですよね」。今年６月末まで11年間児童館館長を勤めながら子どもとその家族を見つめてきた上條さんは、自らの子育てを振り返りながら現在の「優しい時代」に疑問をなげかける。「優しさとは本来、厳しさと同居しているもの。それがいい加減さやあいまいさと混同されている」と。

児童文学者の上條さんはCYR設立20周年記念連続講演会の講師のひとり。講演会のテーマは「もう一度、愛されるために」。児童館で出会った子どもたちの姿から気がついたことやこれからも大切にしていきたい家族の絆について話す予定。（お知らせ欄をごらんください。）

小学校教員を経験後専業主婦になり、孤独だった少女時代からの文学熱が再発したかのように小説を書き始めた。35才で毎日新聞小さな童話大賞落合恵子賞を受賞。以来13年児童文学作家として活躍している。家族の絆にこだわって書き続け、紡ぎ出した作品は30作。家族の絆がなおざりにされていくこの時代に「家庭の中の小さな幸せがいかに大切かを綴っていきたい」という。活字離れで児童書の出版数は年々落ちている。たとえ出版してもあまり収入は期待できない。それでも自分の思いは伝えたい。「今の時代、児童文学はまさに伝道ですよ」という言葉に力がこもった。

ご主人と長女とうさぎの'亜里ちゃん'の４人（？）家族。さびしがり屋のうさぎが気になり外出もままならないとこぼしながらも、「『助けて』と自分から言えない小さな存在を大切にすることで、私自身も癒されているんですよ」と優しい笑顔が印象的だった。

事務所移転のお知らせ

We Are Moving on Sept.19

9月19日（火）に下記に移転します。

〒106-0051 東京都港区元麻布3-2-20 丸統麻布ビル2F TEL：03-3796-6377 FAX：03-3796-6399

New Head Office : 3-2-20 Motoazabu Minato-ku, Tokyo 106-0051, Japan

子どもたちの明日
Children, Our Future
CYR News No.55

発行日 ■ Published
2000年9月5日 September 5, 2000

発行人 ■ Publisher
深水正勝 Masakatsu Fukamizu

翻訳ボランティア ■ Translation Volunteers
大井幸子 Sachiko Ohi
落合雅貴 Masaki Ochiai
篠原麻耶 Maya Shinohara

レイアウト ■ Layout & Design
（株）今竹 Imatake & Associates Inc.

印刷 ■ Printing
東京河北印刷（株） Tokyo Kawakita Printing Co., Ltd.

CYRの活動をご支援ください • Please Join CYR

年会費 Membership Fee per year

正会員 Regular member ¥10,000　学生会員 Student member ¥3,000
賛助会員（団体）Supporting member (Organization/ Corporation) ¥30,000
賛助会員（個人）Supporting member (Individual) 規定なし Any amount

下記の口座に「入会」とご明記の上、ご送金ください。
Please send the money to the following account;

郵便振替 Postal Transfer : 口座番号 PO Acct. No.00110-8-36227
銀行振込 : 第一勧業銀行広尾支店 普通1280817
Bank Transfer : Daiichikangyo Bank Hiroo Branch Savings Acct.No.1280817

幼い難民を考える会は、難民になったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。1992年までタイの難民キャンプで保育センターを運営してきました。現在はタイとカンボジアの農村で、子どもたちが健やかに育つことのできる場所づくりをめざして、主に村の保育所を中心に、子どもと女性を対象とした活動を続けています。

CARING FOR YOUNG REFUGEES
幼い難民を考える会
CYR

東京事務局
〒152-0034東京都目黒区緑が丘1-18-20
TEL：03-3724-7525 FAX：03-3717-3313
E-mail：cyr@mtb.biglobe.ne.jp
ホームページ
http：//www5a.biglobe.ne.jp/~CYR/

Head Office
1-18-20, Midorigaoka, Meguro-ku, Tokyo 152-0034, Japan

Phnom Penh
No.98 St.432 Sangkat Toul TumpoungII, Khan Chamkar Mon, Phnom Penh, Cambodia TEL +855-23-210849